

1 A 0930 ミズクラゲポリプ触手再生からみた放射対称性の検討Ⅰ

○加藤 憲一・吉原 智子 (大教大・生物)

ミズクラゲ (*Aurelia*) のポリプを横に切断すると、下方部の傷口から、正・間・副対称位の順に、それぞれ4, 4, 8本の触手が再生する。マイトマイシンC, コルヒチン, アフィディコリンなどの薬物で処理したポリプの再生をみると、触手再生のこのような秩序性が失われる。処理条件を種々変えた場合の結果を提示し、放射対称性の実現に関して検討を加えたい。

1 A 0945 ミズクラゲポリプ触手再生からみた放射対称性の検討Ⅱ

○吉原 智子・加藤 憲一 (大教大・生物)

ポリプ再生における対称位形成に関わる要因を知る手がかりを得るため、ポリプの4ヶ所の隔壁(水管)のすべてか、1, 2, 3本をあらかじめ切除したあと、ポリプの上方から1/3の水準で横に切断した。薬物処理と、このような水管切除を加えたポリプ再生の結果について述べる。